談 話 室

第13回表面科学講演大会

高 須 芳 雄

信州大学繊維学部精密素材工学科
〒386 上田市常田 3-15-1

(1994年4月15日受理)

The 13th Conference on Surface Science

Yoshio TAKASU

Department of Fine Materials Engineering,
Faculty of Textile Science and Technology,
Shinshu University,
3-15-1 Tokida, Ueda, Nagano 386

(Received April 15, 1994)

本会主催の第13回表面科学講演大会は，平成5年11月30日～12月2日の3日間，前回と同じ早稲田大学総合学術情報センター国際会議場において開催されました。運営担当の立場から，今大会の概要と特徴を報告いたします。

1. 講演分野に新しい風

講演件数は，一般講演103件，依頼講演3件，シンポジウム講演6件の合わせて112件，参加者は前回の271名とほぼ同数の268名（会員189名，学生69名，一般10名）でした。一般講演の分野別講演者は，表面分析法・評価29件，表面化学・触媒21件，表面物理15件，STM/AFM 13件，薄膜・界面・表面処理10件，イオン・電子と表面7件，半導体5件，ならびに誘電体3件となっております。表面分析・評価のセッションは例年どおりの盛況を見せ，昨年度より独立セッションとしたSPM関連の発表件数も増えています。本大会では，従来から基礎科学の発表が多いのですが，薄膜・界面・表面処理のセッションを中心に応用分野の発表が増え，新しい流れを感じました。表面化学・触媒の会場も昨年度より参加者が多く，活気がありました。

講演者の地域別割合は，北海道・東北3%，関東・甲信越76%，中部9%，関西10%，中四国・九州2%であり，この3年はほぼ同じ割合になっています。

2. 大ホールで受賞式・受賞講演

今大会では，受賞講演を井深大記念ホールにて行いました。受賞式に引き続き，論文賞受賞者を代表して柳澤佳寿美氏（神戸製鋼所 化学・高分子研究所）が，「変調構造を有するビスマス系複合酸化物の表面構造の高分解能電顕観察」と題する講演を行い，つづいて奨励賞受賞者の藤田大介氏（金属材料技術研究所）と中村一隆氏(同)が，それぞれ，「TiN/Ti/Si における AES 深さ方向状態解析へのファクターアナリシス法の応用」，および「イオン照射表面の実時間ラマン測定」の，各受賞題目で講演しました。多数の参加者から盛大な拍手が送られていました。

3. シンポジウム：表面と計算機科学の最先端

恒例となったシンポジウムは，受賞式のあった井深ホールにおいて，「表面と計算機科学の最先端」のテーマで開かれました。講演題目は，「走査トンネル顕微鏡/分光の電子状態理論」，「ダイヤモンド表面のアドアトムマイグレーションとステップ成長」，「分子動力学による Si 表面構造の解析」，など物理サイドの講演と，「酸化物触媒の活性種構造」，「ニューラルネットワークの触媒開発への応用」，「密度汎関数による表面の電子構造と吸着分子との相互作用」など，化学サイドの講演で構成され，最近の話題について4時間余にわたり活発な議論が展開されました。なお，シンポジウムのテーマは，今回から，企画委員会と講演大会係との合同会議で決定しました。

4. おわりに

第14回講演大会は，平成6年11月30日(水)～12月2日(金)の3日間，同じ早稲田大学国際会議場にて開催されます。講演申込締切り日は9月1日(木)です。

なお，早稲田大学からは，設備の整った会場をご提供いただいたうえに，運営上も多大なる援助を賜わりました。末筆ながら記して感謝申し上げます。